太平洋イカ類漁場開発調査

（開運丸アカイカ漁場調査・東奥丸イカ類漁場調査）

十三　邦昭・中田　凱久・仲村　俊毅・天野　勝三
兜森　良則

発　表　誌　名

イカ釣漁場開発調査資料XI（昭和61年３月）及び昭和60年度外洋性イカ（スルメイカ、アカイカ）に関する生物測定・標識放流、海洋観測基礎資料集

抄　　録

昭和60年６月～９月の期間において、試験船開運丸（調査海域北緯39°－42′～42°－17′東経142°－14′～153°－00′）及び東奥丸（北緯38°－57′～42°－34′、東経141°－29′～153°－39′）によって、スルメイカ、アカイカ等の漁場環境、イカ類分布の状況及び群の生物的特性等についての調査を行った。

1. スルメイカ及びアカイカ漁場の環境について

東経147°Ｅ以西における15℃と20℃の表面等温線位置は、７～８月は58、59年に比べて本年は最も北にかたよっていたが、147°Ｅ以東では逆に南偏していた。なお、スルメイカ漁場が形成される津軽暖流域の７～８月の表面水温は、例年並であったが、東方への張り出しは著しく狭かった。しかし、９月には例年並に回復した。

2. スルメイカ・アカイカの分布

(1) 延90回の漁獲試験により、スルメイカ74尾、アカイカ56,428尾を釣獲したが、例年より操業回数が少なかったこともあって、スルメイカ、アカイカとも総漁獲尾数では、58年、59年を下回った。しかし、１晩当り漁獲量では、アカイカについては627尾で、59年の530尾を上回った。

(2) アカイカの分布の中心は、146°30′Ｅと153°Ｅ付近にみられ、７～８月についてはＣＰＵＥでは昨年を上回っていたが、９月には下回った。当業船の情報では、９月中は例年になく沿岸寄りに漁場が形成されたのが（本県太平洋距岸20～40浬）特徴的であった。

3. アカイカ来遊群の性状及び漁獲量について

60年の青森県の釣によるアカイカ水揚量は12,144トンで、前年の10,400トンを僅かに上回った。魚体の特徴としては、大型凍結船による標本船の結果によると、本年の場合、９月下旬～10月下旬にかけて、近年では一番大型のものを漁獲している点で、この傾向は10月上、中旬が特に著しかった。